

第11回 胎内市総合計画策定審議会 議事要旨

1. 日時

平成29年2月15日（水）19：00～21：00

2. 場所

胎内市役所 5階501会議室

3. 出席者

【胎内市総合計画策定審議会委員】

中野友美委員、高橋三樹男委員、中原拓也委員、関谷浩史委員、高橋賢一委員、安城守英委員、威本悠希委員、久世秋絵委員

【事務局】

総合政策課長、総合政策課企画政策係長、係員、計画策定支援事業者

4. 議事内容

事務局よりパブリックコメントに対する市の考え方及び総合計画基本計画案について説明した後、施策について各委員から発言。主な発言内容は下記のとおり。

- No. 12 の対応の中で「表現を見直しました」とあるが、具体的にどのような修正を行っているのか。
〔ターゲットを見据えて戦略的に情報発信を行うという趣旨を表現するため「多角的な情報発信に取り組みます」という表現に改めていると事務局回答〕
- No. 15 の対応の中で、ハムやワインは6次産業化のこれまでの取組の例として記載しているという説明をされているが、農家が実際にやるとすると餅、漬け物、そばなどになる。例としてもあまり適切でないのではないかと。
〔ハムやワインが「これまでの取組」としても違和感があるということであれば修正を検討したいと事務局回答〕
- 私も今後の取組としては適切な例とは思わないが、あくまでこれまでの取組ということであれば、反省材料という位置付けにしてみてもどうか。
- No. 25 の対応の中で、「重要な課題については」とあるがどのようなものを想定しているのか。
〔まず典型的なのが子育て・教育である。地域との連携や環境教育など多くの要素が関わるものとして部署を横断した対応が必要だと考えている。他にも、観光分野は自然や風土、文化財などの様々な題材があり、商工観光課だけでなく今後は生涯学習等とも連携が必要である。福祉分野も包括的なケアを展開する上で連携が必要であり、このあたりが喫緊の課題としてすぐに想定されるものだと考えていると事務局回答〕
- 第1次総合計画から第2次総合計画へ向かうにあたって、地方創生という形でシステムが変わってきているため、今までやってきたことを継続させるということも大事になってくる。そのため、内容を厳密化せず何かに応用できる含みを持たせたものになっている側面があり、曖昧な表現になっている部分もあったと思うが、こうした背景をご理解いただき、異論がなければ案の内容についてご承認をいただきたい。

○農業振興について、成果指標の2つ目が10年で約3倍になっているが、1つ目の指標である1人当たり生産額が目標どおり横ばいであったとすると、2つを掛け合わせて農業関係の生産額が総体で3倍になるということになるのか。10年の間に農業の生産額が3倍になるように見える。

〔数がなかなか増えていない認定農業者といわれるような方々を増やしていこうというのが2つ目の指標の趣旨等と事務局回答〕

○担い手の問題で言えば、胎内市では10人いるかどうかというような極めて高いレベルの農業者だけが残っていき、現在集落営農組織としてやっているところが法人としてやっていくというのが現実ではないかと思う。施策の内容③の中で「営農規模の拡大と経営の効率化を促進」という内容があり、集積率90%という目標を掲げているのは分かるのだが、規模の拡大がどんどん進んでいく中で指標の2つ目が3倍に増えるというのはこうした流れと逆行することになるので良くない。1法人=1人というイメージであるならば、増えるのではなく減るのが正解ではないか。1法人=1人として集落営農組織を勘定して行けば、市内であれば20~30人、4~5集落で1人という規模になるのではないかと思う。

○例えば、1つ目の指標は、「就業者1人当たりの生産額」よりも「売上高5千万円以上の法人の数」とした方が、集約されていくという方向性にも合致して良いのではないか。

○一般の人に「生産額」といって分かるだろうか。見方を変えて所得が増えていくような形にしてはどうか。

〔指摘の内容も候補に対応を検討すると事務局回答〕

○文面構成が見やすくなって良いと思う。難しいとは思っているのだが、成果指標は誰もが理解できるかというやや疑問がある。具体的に1つ教えて欲しいのだが、施策14)商工業振興の2つ目の指標「企業立地促進に関する基本計画における指定業種の付加価値額」というのはどのようなものか。

〔注釈をつける等の対応を検討すると事務局回答〕

○当初から、人口を維持するためには胎内市に住んで新潟に通勤するという人が1つのポイントで、そのためには特に朝、夕の公共交通の確保が重要だと考えていた。施策21)地域交通の1つ目「広域交通の利便性の向上」が該当する箇所だが、観光が前面に出ている印象を受ける。「胎内市にいても新潟市に通勤できるから家を建てようか」となるように、通勤や通学をもっと明確にしても良いのではないか。「継続・拡充を要請」だけで良いだろうか。

〔今後の課題で記述しているが、改めて加えるべきということであれば修正したいと事務局回答〕

○こうした取組はコンパクトシティの考え方と矛盾しないだろうか。

〔広域行政、定住自立圏、連携中枢都市圏といった発想もあるので、必ずしも相反するのではなく、近隣とは補完しあう関係にあると捉えており、矛盾はないと思うと事務局回答〕

○10年後のまちの姿が冒頭に来て見やすくなったのでとても良いと思う。また、成果指標についても全体的に現実的な狙える内容のようで良いと思うのだが、これらの指標は10年後のまちになるために押さえておくべきものとして設定しているのだろうか。

〔可能な限り目標に近づけるよう設定したつもりと事務局回答〕

○施策22)防災・減災を見るととても良い目標で、学校や地域との連携などの内容も良いと思うのだが、成果指標にある「防犯・防災メール登録者数」だけは高齢者にはあまり馴染みがなく指標としてピンと来ない印象がある。

〔防犯・防災メールは様々な取組の1つであり、特に避難を誘導するという分野においては、既に

防災行政無線が各集落、各住宅に行き渡っているため、外出時等に防災行政無線を補完するものとして重要だと考えていると事務局回答]

○No. 36 の指摘にある「治安の良さをもっとアピールし…」というにはとても良い意見だと思うのだが、施策 23) 交通安全・防犯の「10 年後のまちの姿」を見ると、現在はあまり安心できない状況にあるような印象を受ける。「“今より” “さらに” 安心して暮らせるまち」という表現にした方が良いのではないか。

[承知したと事務局回答]

○今更異論を唱えるつもりもないのだが、今後の参考として意見を述べておきたい。私が期待していたのは、一步進んだ夢のある内容が具体的な記載としてあることだった。例えば子育て支援の中で、行政だけでは難しいかもしれない産婦人科の誘致などについて、「クラウドファンディング等を活用して産婦人科を誘致します」というように、「実際にできるかどうかはさておき提示してみる」というような内容があちこちに書かれていると良かった。

[ご指摘を生かして皆さまあるいは市民が夢のある内容だと感じるような施策を展開していけるよう宿題として受け止めたいと事務局回答]

○クラウドファンディングの専門家として一言アドバイスをしておきたい。行政が旗を振ると、公平性が重視されどどん財源が足りなくなり、大抵失敗することになるので、民間が旗を振って行政はサポートに回るとい形でないといけない。そうしたアイデアがあるのなら、民間側から既成事実をつくるようにすると良いと思う。

○施策) 21 の地域交通では、立派な目標がありながら成果指標の 1 つ「市道の道路改良率」は 10 年間で僅か 1 %強の改良となっている点が気になる。

[原課と対応を相談したいと事務局回答]